

富士商會 神田東紺町会と「防災セミナー」実施 荒川氾濫時など水害対応学ぼう

百年企業の富士商會(中江宏社長)は4月14日、東京都千代田区のエッサム神田ホールで「防災セミナー」を開催した。共催は神田東紺町会。講師に工学博士でマスコミにも出演した経験のある土木災害専門家の土屋信行氏(リバーフロント研究所技術参与)を招き、「水害列島くもし荒川が氾濫したらあなたならどうする？」をテーマに防災を啓発した。

わが国では気候変動などの影響により自然災害が頻発化激甚化する中、首都圏でも荒川や江戸川など河川の氾濫や高潮による水災害が懸念されている。特に東京都内では江東区や墨田区、江戸川区など江東5区で浸水リスクも指摘されており、千代田区においても被害



土屋氏

木部長を務めた。現在、リバーフロント研究所技術参与として幅広く災害対策に取り組

東日本大震災では宮城県沖の海底が24メートル以上隆起し、これは約300年に1度の規模に相当する大きな海底

また、東京都については江東5区内にゼロメートル以下の地域があり、

今では地盤沈下も加わって最も低い場所では海面より3メートル以下に達し、川が氾濫した場合、荒川以東

は水没し水が長期間引かない恐れがあるとした。一方、地震との関連性にも言及し、強い揺れによる液状化の影響で堤防崩壊の危険性も指摘。こうした地域では避難場所や医療施設、道路も水没し

都市機能がマヒする可能性があり、土屋氏は建物の耐震化は進んでいるが水害対策は遅れていると問題視した。

浸水長期化に警鐘鳴らす



セミナーの様子

今回のセミナーで土屋氏が特に強調したのはハザードマップの重要性だ。「知って、恐れて、備えることが大切」だとした上で、準備すれば命を失うこともなく経済的な損失も抑えられると述べ、企業に対しては水害BCPの策定を促した。

富士商會のセミナーはコロナ禍で3年間の中断があったものの、今回で4回目となり、当日は地元神田東紺町会の関係者など50人近くが参加し、ほぼ満席となった。